

# つながりを意識した製作学習

—ものづくりは人づくり・小物で教育支援をしよう—

持続発展教育の基本的な考え方は、「他人との関係性、社会との関係性、自然環境との関係性を認識し、かかわりやつながりを尊重できる個人を育むこと」である。教育の場における多様な他者との相互行為は、社会に適応し構築していく力を育み、今後さらに複雑化していくと懸念される現代社会を生きていくための要となる。地域の教育力を生かし、つながりを意識した学習を授業において展開することにより、生徒は地域や社会へのかかわりの重要性について考え、再び自分の生活を見つめ行動する「生きる力」も育まれると考え、本題材を設定した。

## 1. はじめに

総合的な学習の時間における「国際理解」の学習や必修技術・家庭科における「家族と家庭生活」の学習を通して、生徒は子どもが育つ環境や教育の可能性について考える場を与えられてきた。これらの既習事項を発展させ、「共生」という視点で他者とのつながりを意識した活動を選択家庭科の授業で実践したいと考えた。

今回、特に注目したのは「子どもの権利条約」にある「教育を受ける権利」である。このキーワードをもとに、身近な材料を使った手軽な小物づくりで、発展途上国の子どもたちの教育支援を進めてきた。

## 2. 実践について

### (1) 内容の検討

生徒や学校、地域の実態を考え、以下のような条件をもとに製作内容の検討を行った。

#### ①基礎的・基本的な知識・技能を活かす

基本的な縫製技術（なみ縫い・まつり縫い・ミシン縫い・ボタンつけ・簡単な刺繍ステッチ）を活用し、短時間でできる作品とする。

#### ②身近な材料を活かす

新たに材料を購入するのではなく、不用品や廃棄物などを活用したりサイクルをめざす。

#### ③地域の人材を活かす

教育支援の活動に取り組んでいる地域の団体などから情報を得ることによって、「何が必要なのか」「何ができるのか」といったニーズやタブーとされている

内容を事前に把握しておく。

### (2) 実践内容

検討事項をもとに「バングラデシュの子どもたちに手づくりの文具品をつくろう」のテーマで学習を展開した。

#### ①問題提起 (1時間)

地域の教育支援団体と元海外青年協力隊の方々によるバングラデシュの現状報告をワークショップを交えながら実施した。その際、劣悪な教育環境の中で文具



講師によるワークショップ

品を手にとって通学する子どもたちも多いため、通学

バッグの製作提案を受けた。

#### ②バッグ製作 (10時間)



不用品を活用した通学バッグ

材料 バッグ用布（不用になった暗幕）

メッセージ用布（廃棄処分の教室カーテン）

○印つけ・メッセージパーツづくり（5時間）

小学校に入学する子どもたちに向けて、イラストや言葉を刺繍する。

○わき縫いと始末（2時間）

○袋口の始末と手提げテープの縫い付け（2時間）

○バッグに添えるメッセージカード作成（1時間）



60個の作品は、支援団体を通してバングラデシュの小学校入学式において1年生の子どもたちに贈られた。地域の支援団体は、現地に日本人スタッフを派遣しており、入学式の様子を生徒に伝えることもできた。



### （3）生徒の感想（このような活動に対して思うこと）

○私たちは、今すごく恵まれた環境にいて、普段はその状況に対して特にどうも思わなかったりしているけど、こんな活動を通して「世界には私と年が同じで、もう結婚したり働いていたりする子もいるんだなあ」と分かって、「私には何ができるんだろう？」と、考えることができました。

○バングラデシュの子ども達のことを思いながら、バッグづくりをしました。人の役にたつ物を作るのは、いろいろなことを考えながらできるので、すごく楽

しかったし、自分のバッグがどのように使われるのかすごく楽しみです。

○私たちの身のまわりにある物からバッグを作って、バングラデシュの子ども達に贈るという活動を通して、心をこめて、一生懸命作れば、その心は子ども達に伝わるのかなあと思いました。バッグ一つで、日本の私たちとバングラデシュの子ども達が少しだけ近づけたように思えました。

○世界の子ども達のためにこのような活動をするのは、とてもいいことだと思います。私の夢は、看護師になって、途上国の人たちのサポートをしたいとおもっているのですが、今回このような活動をすることができ、一步夢に進めたような気がします。

## 3. 成果と課題

### （1）成果

○発展途上国の教育の現状を知り、自分達にできる範囲で作品作りにかかわってきた。「何のためにバッグを作るのか」という目的意識が明確であるため、意欲や関心も高まり、広い視野で作業にかかわることができた。

○地域人材を必要な場面で、有効に活用することにより、生徒は新たな発見や価値観を授業を通して見出すことができた。導入や終末における外部講師の存在価値を認識することができた。

○不用になった身近な材料を使うことで、材料費の負担をカバーすることができた。また、新たな目的のもと、役割を与えられたリサイクルバッグを通して、生徒に物に対する考え方を再認識させることができた。

### （2）課題

○今まで、主に選択家庭科の分野で実践してきた「つながり」を意識した学習内容であるが、今後、選択教科が廃止されれば精選の必要がある。必修教科の少ない授業時数の中で、基礎・基本的な内容の充実と実践的・体験的な学習活動を兼ねたつながりの場面をどのように展開していけるのか、家庭や地域との連携を見据えた題材の見直しや新たな開発が必要である。